

発達、遊び、幼児教育、幼稚園、保育、好奇心、幼児、子ども、心(こころ)、発達心理学

先生の講義動画が
視聴できるよ!



幼稚園児の頭の中で、一体何が起きている？

脳や心が急激に成長する乳幼児期

誕生してすぐのヒトの脳は、重さ400gほどですが、6歳くらいまでに1,200gほどになり、大人とほぼ変わらない大きさまで急激に成長します。それと共に、子どもの心も、保育園や幼稚園の先生や保護者、そして友だちとの遊びやコミュニケーションの中で徐々に育まれます。

環境との関わりを通して「心」を成長させる

先生たちは、遊びや環境設定を通じて子どもの心の成長を刺激します。例えば、最近では「恐竜には羽毛が生えていた」という説があります。工作遊びで恐竜を作るとき、先生が材料の中に、フワフワの毛糸を用意したとします。知っている子は毛糸にも手が伸びるでしょう。一方で、知らない子は「なぜ毛糸があるんだろう？」と疑問に思って、毛糸を使っている子や先生に聞いたりします。先生はただ知識を教えるだけでなく、子どもが遊びの中で、新しい事柄に自発的に気づけるような仕掛け、つまり環境を準備し、好奇心の種をまくのです。新たな知識は、子どもの興味の幅を大きく広げます。特に幼児期は、遊びで生まれた「なぜ」「なに」を、大人が深めてあげることが大切です。



小学校以降の基盤を育む重要な時期

最近の教育に関わる研究では、IQや学力で評価する能力を「認知能力」といいます。一方、物事に持続的に取り組んだり、仲間と一緒に協働するといった、社会的適応に必要な能力を「非認知能力」といいます。その中に、「実行機能」という「自分の行動や気持ちをコントロールする能力」があります。幼児期に実行機能が高かった子は、小学6年生になったときの学業成績も良い傾向にあります。また、「心の理論」といった、相手の心の状態を読んだり、相手の立場に立って考えるために必要な能力も、乳幼児期から発達し始めます。幼児期の心の理論の能力の高さは、小学校での友人関係の良好さとも関連します。このように、幼児期に育まれた能力は、その後の子どもの生活の基盤となっています。

この講義の学問分野 ▶ ⑤ 心理学・行動科学 / ⑦ 人間科学 / ⑪ 教育

SDGs



先生からのメッセージ

千葉大学

教育学部 学校教員養成課程

教授 中道 圭人 先生



私が学生の頃は、保育士はまだ「保母さん」と呼ばれ、女性ばかりで、男性保育士の「保父」さんなど少数でした。それでも、小学校の卒業文集に書いた、私の将来の夢は「保父」でした。小学生の頃から10歳離れた弟の世話を進んでやるなど、子どもが好きだったからです。その思いで大学まで進学しました。大学で「発達心理学」という学問に出会い、幼児や子どもを対象にした研究の道へ進みました。あなたの夢は、将来実現できそうですか？ 本当にやりたいことなら、決して諦めないでください。必ずあなたが進む道が見つかります。

千葉大学 (千葉県) に興味を持ったら

千葉大学は、他大学にないユニークな学部を含む全10学部を擁する総合大学です。学際的文理融合の精神のもとに、教育研究の高度化、産官学の連携推進、国際交流の拡充を進めています。近隣には放送大学、国立歴史民族博物館などがあり、各分野で共同研究が行われています。「つねに、より高きものをめざして」の理念のもと、世界を先導する創造的な教育・研究活動を通しての社会貢献を使命とし、生命のいっそうの輝きをめざす未来志向型大学として、たゆみない挑戦を続けます。

発達、遊び、幼児教育、幼稚園、友だち、幼児、子ども、保育所(保育園)、模倣、非認知能力

先生の講義動画が
視聴できるよ!



「同じ」でつながる子どもたち 幼児の同型的行動と仲間関係

子どもの世界にあふれる「同じ」

幼稚園や保育園に通っていた頃、友だちと遊んでいる中で、他の子どもと同じ行動をしたり、他の子どもと同じおもちゃで遊んだり、他の子どもと同じ言葉を繰り返したりした経験があるかもしれません。これらの「同じ動きをする」「同じ物を持つ」「同じ発話をする」ことには、どのような意味があるのでしょうか。子どもたちの何気ない行動から発達の鍵を見つけようと、幼稚園で子どもたちの様子をビデオ撮影し、「同じ」に注目した行動の分析が行われました。



遊びの中の「同型的行動」

子どもが他の子どもと同じ動きなどをするなどを、「同型的行動」といいます。遊びの中では、例えば、Aくんが笑いながら廊下でしゃがむと、Bくんも同じように廊下にしゃがみました。Aくんがピストルの形に組み上げたブロックをBくんに渡して、二人とも同じ形のブロックを持って遊びました。これらは二人の間の仲間意識を反映していました。また、ある子どもの発話を同じリズムと音程で他の子どもたちが繰り返す場面も見られました。発話は簡単に反復しやすいため、周囲に広まりやすく、繰り返すうちに、同じ発話すること自体を楽しむ遊びへと発展していきました。

「同型的行動」と仲間関係

調査の結果、同型的行動には、「仲間関係の形成」「仲間関係の維持」「仲間とそうでない者の区別をアピールする」などの働きがあることがわかりました。例えば、複数の子どもが「同じ物を持つ」ことは見てわかりやすいため、仲間関係を視覚的にアピールすることになります。また、ブロックをピストルに見立てるなど、同じ物を持つことが同じイメージを共有して遊ぶことに重なり、仲間意識を強めます。これらの経験は、他者と関わる力も含む「非認知能力」にも繋がります。

幼児教育現場でも、子どもたちが同型的行動を好むことは経験的に知られていましたが、具体的な働きはわかっていませんでした。学術的な視点で見ることで、子どもの何気ない行動の発達の意味を理解し、それを活かした環境構成や援助を行えます。

この講義の学問分野 ▶▶▶ ⑪ 教育 / ⑥⑩ 児童学 / ⑤ 心理学・行動科学

SDGs



先生からのメッセージ

千葉大学
教育学部 学校教員養成課程
教授 砂上 史子 先生



幼稚園や保育所などで、子どもは遊ぶことを通して学び、育ちます。それは生涯にわたる健やかな育ちの土台となる経験をもたらします。のびのびと遊ぶ子どもの背後には、子ども一人一人を丁寧に理解し、発達にあった環境を整え、適切な援助を行う保育者の専門性があります。その専門性は、「正解」のあるマニュアルに沿うようなものではなく、具体的な状況などに応じて「最適解」を生み出すものです。そこに幼児教育の面白さがあります。さらに、研究的な視点を持つと、子どもの行動の新たな意味が見えてきます。

千葉大学(千葉県) に興味を持ったら

千葉大学は、他大学にないユニークな学部を含む全10学部を擁する総合大学です。学際的文理融合の精神のもとに、教育研究の高度化、産官学の連携推進、国際交流の拡充を進めています。近隣には放送大学、国立歴史民族博物館などがあり、各分野で共同研究が行われています。「つねに、より高きものをめざして」の理念のもと、世界を先導する創造的な教育・研究活動を通しての社会貢献を使命とし、生命のいっそうの輝きをめざす未来志向型大学として、たゆみない挑戦を続けます。

音楽教育、表現、音楽、保育者、アドリブ・インプロビゼーション(即興)、遊び、幼児教育、楽器、保育、幼児、音(サウンド)、インクルーシブ教育・インクルージョン教育

先生の講義動画が
視聴できるよ!



「楽譜どおり」だけじゃない、誰もができる「自分らしい音楽」

子どもたちは遊びの中で音楽をつくっている

例えば、幼稚園などで楽器を持って子どもたちが遊んでいる場面を見ているとします。しばらく観察していると、子どもたちはただ自由に鳴らしているのではなく、繰り返し音を出す中で、意図して誰かと応答しながら音楽をつくっていることに気づきます。子どもたちはいろいろな音楽や音に触れてインプットしつつ、それを基に即興的な表現でアウトプットしているのです。幼児の即興表現をテーマにした研究では、そういった音楽表現をすべて記録し、楽譜にして分析するといったことを行います。

まずは保育者が気づくこと

子どもたちが即興でつくり上げる音楽はとても素朴なので、誰にも気づかれず、見過ごしてしまうことがあります。保育者はそうした子どもたちの素朴な表現を、読み取り、受け止めることによって、子どもの自由な表現を支えていきます。こうした子どもの素朴な表現を支えるひとつの手段として、保育者は音楽の仕組みを理解していることが大切です。保育者自身が、例えば楽器演奏が苦手でも、歌ったり身近なモノを用いてリズムで表現することが、子どもたちのクリエイティブな音楽活動を援助することにつながります。



いつでも、どこでも、誰もができる音楽表現

「楽譜どおりの音楽」となると、どうしても「できない」と劣等感を抱く子どもが出てしまいます。しかし本来、音楽は自由で楽しいものです。その子に合った音楽表現のあり方、楽しみ方があっていいという観点から、研究は「インクルーシブな表現教育」、つまり「誰もができる音楽表現とは何なのか」というところに広がっています。特別支援学校で、アフリカの「ジャンベ」という太鼓を使って持続するリズムをずっと繰り返してみると、子どもたちは生き生きとリズムに乗って自由に歌ったり音を鳴らしたりしながら一緒に楽しむことができました。即興というと、身構えてしまい表現することが「恥ずかしい」と思うかもしれませんが、やってみると簡単で楽しく、「音楽って誰でもできる」ことを実感できるものなのです。

この講義の学問分野 ▶▶ (11) 教育 / (13) 音楽 / (60) 児童学

SDGs



先生からのメッセージ

千葉大学
教育学部 学校教員養成課程
准教授 駒 久美子 先生



何に対しても面白がれることは大切だと思います。幼児の表現を面白いと思うこともそうですし、いろいろなことに興味や関心を持って、チャンスがあれば必ず挑戦してみてください。私は学生の時から音楽の勉強をしてきましたが、いろいろな楽器に触れてみたり、音楽以外のこともやってみたりしながら音楽の幅を広げたいと思っていました。それが今の自分を作ってくれて、成長もできたと考えています。「自分にはできない」ではなく、「自分にはこんな可能性があるかも」と思いながらチャレンジしましょう。

千葉大学(千葉県) に興味を持ったら

千葉大学は、他大学にないユニークな学部を含む全10学部を擁する総合大学です。学際的文理融合の精神のもとに、教育研究の高度化、産官学の連携推進、国際交流の拡充を進めています。近隣には放送大学、国立歴史民族博物館などがあり、各分野で共同研究が行われています。「つねに、より高きものをめざして」の理念のもと、世界を先導する創造的な教育・研究活動を通しての社会貢献を使命とし、生命のいっそうの輝きをめざす未来志向型大学として、たゆみない挑戦を続けます。

遊び、幼児教育、特別支援教育、生態学、障害、生活(ライフ)、居場所、就学移行

先生の講義動画が
視聴できるよ!



「あたりまえ」の環境を大切にした障害幼児の理解と支援

遊びや生活から学ぶ

生まれた子どもに障害があることを知った保護者の中には、早く障害のある子どものための専門機関につながり、専門的な指導を受けてもらいたいと思っている方もいます。専門機関で受ける指導はもちろん大切です。ただ、子どもは日常の遊びや生活からも多くのことを学びます。例えばおもちゃ遊びやお絵描き、絵本の読み聞かせといった、その子がやりたいこと、興味があることを通して運動能力や情緒、認知的能力が育まれ、人とのつながりや自動スキルなどが身につきます。これは障害のある子どもも同じなのです。



就学移行の支援

また、障害のある子どもが小学校に入学する「就学移行」期には、様々な支援が行われています。その子の幼児期の姿について学校に適切に引継ぎ、毎日の授業にいかに慣れていってもらうかが大切でしょう。しかし、初めて小学校に通う子どもにとっては勉強のことだけではなく、例えば休み時間の過ごし方や友達との関係性など、大きく変わった環境にいかに適応して、自分の居場所を作れるかどうかも大切です。たとえ同じ障害でも、障害の影響の強さや就学後に置かれる環境は千差万別です。そのため子どもだけでなく、子どもと環境との相互作用にも目を向けなくては、就学期の子どもの実態を正しく把握できません。

特別支援教育と幼児教育

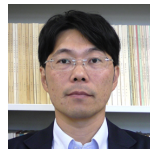
障害のある子どもへの教育を「特別支援教育」といい、障害の有無にかかわらず、すべての幼児期の子どもに対する教育を「幼児教育」といいます。特別支援教育の分野では、これまで障害のある幼児期の子どもについての知見を様々に確立してきましたが、それらは幼児教育と完全に切り離せるものではありません。例えば生活や遊びなどあたりまえの環境からヒントを見つけることを含めて、特別支援教育と幼児教育双方の知見を生かすことが必要です。そこに、一人ひとりの子どもに向き合い、その子と環境の相互作用について考える「生態学」のような視点を加えることで、子どものありのままの姿を出発点とした、より良い教育のあり方が見えてくるのです。

この講義の学問分野 ▶ ⑤ 心理学・行動科学 / ⑦ 人間科学 / ⑪ 教育 / ⑤⑦ 保健・福祉学 / ⑥⑩ 児童学



先生からのメッセージ

千葉大学
教育学部 学校教員養成課程
准教授 真鍋 健 先生



教育や保育に携わろうとする方には、専門領域ごとの知識・技能に加えて、子どもたちとどう関わろうとするか、その態度が問われます。子どもと関わる中で自分を高められる方は、教育学部に向いていると思います。また、時代の変化が激しい現在では、1つのことだけにこだわらず、複数のことに目を向けてほしいです。例えば、私は特別支援教育と幼児教育の両方を研究しており、だからこそ発見できることも多いのです。本学では海外留学にも力を入れていますから、ぜひここで視野を広げ、自分や世界について見る力を養ってほしいです。

千葉大学(千葉県) に興味を持ったら

千葉大学は、他大学にないユニークな学部を含む全10学部を擁する総合大学です。学際的文理融合の精神のもとに、教育研究の高度化、産官学の連携推進、国際交流の拡充を進めています。近隣には放送大学、国立歴史民族博物館などがあり、各分野で共同研究が行われています。「つねに、より高きものをめざして」の理念のもと、世界を先導する創造的な教育・研究活動を通しての社会貢献を使命とし、生命のいっそうの輝きをめざす未来志向型大学として、たゆみない挑戦を続けます。

小学校、表現、個性、幼稚園、教師・先生・教員、絵画・絵、ギャップ、美術、子ども、学習指導要領、保育所（保育園）、図画工作、造形

幼児教育から初等教育への「造形活動」の接続について考える

造形を通して自他を知る

多くの子どもが幼稚園・保育園や小学校で絵を描いたり、モノをつくったりといった「造形活動」を経験します。幼少期に、自宅やアトリエではなく、園や学校といった多くの人が集まる場で造形活動をするという経験は、表現の体験や方法を学ぶだけでなく、「自他を知る」ことにもつながります。例えば、自分の好きな色と友達の好きな色が違う、といった単純な事実から多様性の尊重につながる発見が得られるように、幅広い学びが期待されます。しかしそんな造形教育も、幼児教育から初等教育（小学校）への接続にあたっては、さまざまなギャップが生じることが指摘されています。

幼小接続のギャップ

例えば幼児教育では、緩やかな活動時間の中で子どもたちは自分の遊びたいことを見つけたり、活動に関わったりします。一方、小学校では決められた授業時間の中で活動します。中学校でも同様です。造形表現、図画工作、美術の時間は、その子自身の思いやしたいこと、考えたことから出発していく活動です。その中にある、自ら気づき、考えて、表したりしていこうとすることは、人が育っていくためにはとても大切なこととされていますが、一人ひとりの出発点や経験、実態等も異なるため、全員が同じ長さの時間の中で同じ進度で活動することには難しさも伴います。



教育学の役割

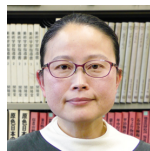
こうしたギャップも要因の一つとなり、幼児期には自分なりの表現活動に親しんできた子どもが、小学校の授業に戸惑い、表現が苦手になるケースも見られることがあります。また、教師たちも、子どもの実態に合った内容を考えたり、指導や支援の方法に苦慮するケースも少なくありません。

教育学では、こうした幼児教育や初等教育における造形活動のあり方についてさまざまな研究を行っています。その成果を教育現場にフィードバックすることで、子どもたちが主体的に取り組める表現の場を教育の中に設けること、また子どもたちの育ちにつながり、教師のサポートになるようなカリキュラムをつくることも、教育学の重要な役割なのです。

この講義の学問分野 ▶ ⑫ 美術・デザイン・芸術学 / ⑥⑩ 児童学 / ⑪ 教育

先生からのメッセージ

千葉大学
教育学部 学校教員養成課程
准教授 小橋 暁子 先生



私は造形教育を専門にしています。表現の世界には「こうあらねばならない」という決まりはありません。表現のきっかけは生活の中やいろいろな場面に隠れています。ぜひセンサーを働かせて気づいたり見つけたりしてください。また、あなたが教育や保育といったことに関心があるのなら、人に興味をもつということ大切にしてほしいです。いろいろな人と話して、その人がどんなものが好きで、どんな考えを持っているのかといったことを意識しながら関わってみる、といった経験を、高校時代にたくさんしてほしいです。

千葉大学(千葉県) に興味を持ったら

千葉大学は、他大学にないユニークな学部を含む全10学部を擁する総合大学です。学際的文理融合の精神のもとに、教育研究の高度化、産官学の連携推進、国際交流の拡充を進めています。近隣には放送大学、国立歴史民族博物館などがあり、各分野で共同研究が行われています。「つねに、より高きものをめざして」の理念のもと、世界を先導する創造的な教育・研究活動を通しての社会貢献を使命とし、生命のいっそうの輝きをめざす未来志向型大学として、たゆみない挑戦を続けます。